

令和7年度目標達成状況（多気町）（2月）

1. 夢や志の実現をめざし、自らの可能性を追求し、新たな時代を「生き抜く」力を育む教育の推進

（1）「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成

項目	到達度	主な取組内容	結果
① 確かな学力を身に付け、自ら学ぼうとする子ども			
<p>ア 子ども一人ひとりの状況を的確に把握し、どの子ども安心して学べる仲間づくりを進めます。</p>	}	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して学べる学級集団づくり <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の定着 ・UDの授業づくり ・わからないと言える仲間づくり ・ペア、グループ学習の活用 ○多気町教職員全体研修会開催（4月） <ul style="list-style-type: none"> ・講師桃山学院教育大学 松久眞実教授 ○QU（学級満足度）調査、児童生徒アンケート、教育相談の実施 ○SC、SSW、関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議の定期開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業や教育活動の観察、QU等も参考にしながら、全職員が児童・生徒の実態について情報共有し、生活背景も含めた子ども理解に努めることができた。 ・見えてきた課題について、ケース会議等を通して、支援の在り方について共通理解を持つとともに、教育委員会、健康福祉課、SCやSSW、児童相談所等と連携して、組織的に改善に向けて取り組むことができた。
<p>イ 多気町学力向上アクションプログラム（改訂版）をもとに、学力向上に努めます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○定量的、定性的データに基づく、学力・学習状況の把握と改善 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査（4月） ・みえスタディチェック（4月、1月） ・ベネッセ総合学力調査（12月） <ul style="list-style-type: none"> →自校採点、結果分析、授業改善、補充学習、検証のサイクル ○多気町学力向上推進委員会開催（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修計画にそって、全員体制での自校採点、結果分析を行い、強み、弱みを把握し、授業改善に努めた。 ・全国学力・学習状況調査の結果は、小・中学校においては、全ての教科において上回る結果であった。 ・町学力向上委員会では、各校での「できなかったことをできるようにする取組」を中心に交流し、小中、小小の連携を深めることができた。

<p>ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を進めます。</p>	<p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした研修テーマの設定および授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現し、伝え合いたくなる授業づくり～相手や目的を意識して～(相可小) ・思いや考えを表現できる子どもの育成 ～かかわりを通じたふりかえり～(佐奈小) ・「自ら考え、学び合う」授業の創造 ～子どもを中心とした授業をみんなでめざして～(津田小) ・「読解力」を育てる授業の工夫 ～算数科の授業を中心にして～(外城田小) ・子どもの心に火をつける授業づくり ～算数科を軸とした「きき合う」活動を中心として～(勢和小) ・未来を切り拓く創造性の育成 ～「ふるさと学習」を軸とした探究活動を通して～(勢和中) <p>○指導主事の派遣(各校) <R7年度重点校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相可小 ・多気中 <p>※週一回程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を計画的に行い、互いに学び合うことを通じて、学校全体の授業力の向上を図ることができた。 ・授業公開期間やミニ研修会など教員が自主的に授業づくり、学級づくりについて学び合う機会を設けることができた。 ・指導主事が継続的に授業に参加することを通じて、校内研修会での学びの具現化を図り、教員一人ひとりの指導力向上につなげることができた。
<p>エ 少人数授業(習熟度別指導・チームティーチング)などを通して、個に応じたきめ細かな指導を展開します。</p>	<p>○「わかる授業推進事業」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勢和中(1、2年:数学, 3年:英語) ・勢和小(3年, 6年:算数) <p>○きめ細やかな少人数指導の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1、2年数学、小学校3、5、6年算数では習熟度別指導で取り組んだ。少人数で落ち着いた雰囲気の中で、子どもの実態に合わせた学習を丁寧に進めることができた。 ・小規模校の特性を強みとし、子ども一人ひとりに応じた指導を充実させることで、基礎的・基本的な学力の向上を図ることができた。
<p>オ 第四次子ども読書活動推進計画をもとに、図書館の読書及び学習・情報センターとしての機能を高め、子どもたちの読書活動を推進します。</p>	<p>○朝読の時間の確保</p> <p>○学校図書館利用・経営の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における調べ学習の場づくり ・読み聞かせ ・ブックトーク、ビブリオバトル等 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の確立として、毎日の朝読の実施を1年間通じて実施できた。 ・児童生徒の読書への関心を高めるため、朝読やブックトーク、読み聞かせ、ビブリオバトル等の企画を計画的に進めることができた。

② 人権を尊重する心豊かな子ども

<p>ア 多気町人権教育カリキュラムをもとに、教育活動全体を通じて人権教育を進め、人権尊重の意識や実践力を育みます。</p>	<p>3</p>	<p>○県人権アライメント事業における実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究校における研究授業 ・協働的な学習活動(多気中学校区人権フォーラム) <p>→各中学校区フォーラム全体会(12月)</p> <p>○多気町小中連携人権教育カリキュラムに沿った人権教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム実行委員会(年間7回) ・フォーラム活動 <p>○人権教育授業参観・人権講演会の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の人権アライメント事業を受けて、校内研修会などで教職員が人権について深く考える機会を持つとともに小中学校・高等学校の教職員と連携して意見交換をする機会を持った。また、児童生徒は人権フォーラムを通じて学校が安心して学べる空間になるためにはどうしていけばいいかというテーマのもと小中高校生が意見を交わしあいながら課題解決に向けた取り組みをした。 ・子どもたちの実態に合わせてながら、より「考え、議論する」授業となるよう指導内容を工夫し、展開することができた。
<p>イ 「特別の教科 道徳」の授業を中心として道徳教育の充実を図るとともに、地域と連携した取り組みを進め、児童生徒の道徳性を育みます。</p>		<p>○「考え議論する道徳」の実践</p> <p>○学校教育活動全体を通しての道徳教育の実践</p>	

③ 心身ともに健やかな子ども

<p>ア 家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の確立及び健康の保持、体力の向上に努めます。</p>	<p>3</p>	<p>○基本的な生活習慣確立に向けての指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、廊下歩行、時間意識など生活指導 ・清掃、給食指導 <p>○アンケート等による実態把握・実践的な態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケート ・すこやかカード ・ファミリーウィーク、メディアコントロール ・弁当の日 <p>○心身の健康増進に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発育測定、健康診断、新体力テストの実施 ・感染症対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の子どもとのふれあい、教職員間や保護者との連絡・相談、QU調査、生活アンケート、すこやかカード等により子ども一人ひとりの状況を多面的に把握し、指導・支援を行うことができた。 ・体力テストを実施することで、児童生徒の実態把握をし、授業改善に役立てた。
<p>イ 食に関する知識と食を選択する力、健全な食生活を実践する力を育む食育を推進します。</p>		<p>○食に関する指導の全体計画、年間指導計画に基づいた食教育の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食教育に関する授業を栄養教諭と連携し、計画どおりに実施することができた。

<p>ウ 日常生活に生きる安全教育の充実に努めます。</p>		<p>○交通安全教室の実施 ○避難訓練、防災学習の実施 ○「防災ノート」の活用</p>	<p>・地域の機関「とまとーず」と連携し、交通安全教室を実施した。 ・避難訓練や保護者への引き渡し訓練・「防災ノート」を活用した防災学習についても年間計画通り実施することができた。</p>
<p>エ 学校給食の充実に努めます。</p>		<p>○地場産物の活用 ○生産者・調理委託業者等、関係機関との連携</p>	<p>・地場産物の活用をすすめるため、生産者や関係機関と連携をとり、新たな食材を学校給食に取り入れた。 ・地場産物を扱うことで、食べ物に対する児童生徒の関心も高めることができた。</p>

<改善課題>

- ・各種学力調査の結果、一部課題は見られるものの、多くの学年で全国・県の平均以上という成果が出ている。これは、各校が『学力向上アクションプログラム』に基づき、弱点克服に組織的に取り組んできた成果と捉えている。一方で、基礎学力が定着しきれていない児童生徒への支援は依然として課題である。画一的な指導ではなく、一人ひとりのつまづきに応じた学習課題を設定するなど、個に寄り添ったきめ細かな指導を徹底する必要がある。今後も、子どもたちが授業の中で『できた』という喜びを感じ、自ら学ぶ意欲を持てるよう、授業づくりの研究を推進していく。
- ・三重県が推進する『人権教育アライメント事業』を核として、校区の小中学校と近隣の県立高校とが連携し、教職員による合同研修を重ねてきた。小・中・高という校種の垣根を越えて課題意識を共有したことで、9年間ないし12年間を見通した一貫性のある指導や学校づくりへの理解が深まった。また、児童生徒が参加する『人権フォーラム』では、異年齢の子どもたちが『安心して自分を出せる学校』をテーマに協議し、各校の実践を交流した。先輩・後輩の考えに触れることは、互いの人権感覚を磨き、視野を広げる極めて有効な機会となった。今後も、今年度築いた校種間のネットワークを維持・発展させ、地域全体で子どもたちを見守り、誰もが安心して学べる人権尊重の学校づくりを強力に推進していく。

(2) 他者と協働して豊かな未来を創造する力の育成

項目	到達度	取組内容	結果
① 社会の変化に対応できる子ども			
ア 発達段階に応じたキャリア教育を推進します。	4	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートの作成 ○各教科による出会い学習の推進 ○進路学習の実践（中学校） <ul style="list-style-type: none"> 1年：職業調べ、2年：職業体験・高等学校調べ、 3年：進路実現に向けた実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間や社会科、道徳科、特別活動の中で、児童生徒の発達段階に応じて、自分の生き方や職業、働くこと等について学習を進めることができた。 ・キャリア・パスポートや学習ファイルに考えたこと等の記録を残し、必要に応じて振り返ることで、一人ひとりの生き方観、職業観、勤労観の育成を進めることができた。
イ 地域や学校の実態や特色を生かした環境教育を推進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の素材を活用した体験学習の実施（相可小）米、大豆、佐奈川、松阪牛等（佐奈小）米、みかん、松阪牛、アゼオトギリ等（津田小）米、伊勢芋、自然体験学習等（外城田小）米、柿、ぶどう、女鬼峠等（勢和小）米、大豆、立梅用水、水生生物調査等（勢和中）小麦、アジサイ祭り、各種ボランティア活動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて、各教科で環境について系統的な学習を進めるとともに、地域の里山や校区巡り、近隣の環境問題に関わる見学を行い、環境問題への知識や実践力の育成を進めることができた。 ・地域で活動する人と出会ったり、企業の協力を得たりして、環境教育に関わる学習や体験活動を実施し、地域の自然や環境問題に対する意識を高めることができた。
ウ 国際交流、国際理解教育を推進します。また、外国語教育（外国語活動・外国語科）について、効果的な指導方法の検証を進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○外国語教育（外国語活動・外国語科）の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・多気町外国語教育担当者会 ・多気町小中外国語教育研究会（多気中、佐奈小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・A L Tを活用し、英語科や外国語活動の充実や国際理解の取組の推進を図ることができた。

	<p>○姉妹校との国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャマス市の中学校生徒来日 ・金華国民中生徒とのオンライン対話 (中2：年2回) ・台湾金華国民中学校へ生徒派遣 (勢和中5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・金華国民中生徒とのオンライン対話を通して、英語でのやり取りの楽しさを実感することができた。 ・外国語教育に関わって小中学校を接続するうえでの重点項目を共有することができた。
<p>エ G I G Aスクール構想の実現に向けて、ICTを効果的に活用する学習を推進します。</p>	<p>○ ICT 支援員と連携した授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の積極的活用 ・個別最適化の学びの提供 <p>○ GIGA スクール構想担当者会の開催</p> <p>○「多気町 GIGA スクール構想」教職員対象アンケート実施（11月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を効果的に活用することができるよう研修を重ね、各教科等で実践することができた。 ・不登校児童生徒ややむを得ず欠席している児童生徒に対して、Google Meet を活用した同時双方向型オンライン授業提供を行うなど一人一台端末を有効に活用することができた。 ・町 GIGA スクール担当者会の中でも、各校で取り組まれている実践交流の機会を持ち、より効果的な利用について考えることができた。 ・活用度アンケート結果 (R7年度 81.1pt ↑)

<改善課題>

- ・国際理解教育の新たな展開として、長年姉妹校提携を結んでいる台湾・金華国民中学校との交流を深化させた。本年度は、ICT を活用し、両校の生徒がオンラインで直接英語を用いて対話する取り組みを初めて実施した。同世代の生徒同士が画面越しに顔を合わせ、英語でコミュニケーションを図る体験は、生徒たちにとって『英語が通じた』という大きな自信につながった。日頃の学習成果を実践する場として、また異文化への興味関心を高める絶好の機会となり、英語を学ぶ意義を再認識させる教育効果の高い活動となった。
- ・GIGA スクール構想の推進により、教職員の ICT 活用指導力は着実に向上し、日々の授業における『学びの文房具』としての活用が定着しつつある。これは、各校の課題に応じた校内研修の成果に加え、ICT 支援員によるきめ細かなサポートが大きく寄与している。今後の展望として、特に統合を控える小学校においては、児童間の交流機会の創出が急務である。そこで、ICT の強みである『距離や時間を超えたつながり』を生かし、オンラインでの合同授業や成果発表会などを積極的に導入していく。ICT 機器を単なる学習ツールとしてだけでなく、学校間のコミュニケーションを深める架け橋として活用し、児童生徒と教職員が共に成長できる新たな実践モデルの構築を目指したい。

(3) 一人ひとりの特性を生かした教育の推進

項目	到達度	取組内容	結果
① 一人ひとりに応じた指導・支援の充実			
<p>ア 安心して学べる授業づくりや子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援が行える体制づくりを進めます。</p>	4	<p>○教育相談体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談機関の設定 ・生活アンケート、QU 調査 <p>○困り感のある児童への学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、教育支援計画の作成 <p>○保護者、関係機関との連携、ケース会議 (SC、SSW、児童相談所、医療機関等との連携強化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心に支援の在り方について、全教職員で共有し、共通理解のもと実践を進めることができた。 ・加配教員や学校支援員の効果的な配置に努めるとともに、学校においては支援を要する児童生徒の個別の教育的ニーズに応じた教育活動を展開することができた。
<p>イ 子育て総合支援室との連携を深め、途切れない一貫した支援体制の充実を図ります。</p>		<p>○関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援室の定期的訪問・懇談 ・県立学校特別支援学校による支援訪問・懇談 ・その他外部関係機関との連携 (松阪市教育支援センター、こども課、町内保育園等) <p>○パーソナルファイルの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て総合支援室をはじめ、町内保育園等とも連携し、途切れない一貫した支援体制の充実に努めた。子育て総合支援室からは幼児期以降の児童生徒の様子や養育状況を把握したうえで、継続的に指導・助言をいただけるので、組織的な支援体制の構築につながることができた。
<p><改善課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団生活になじめない児童生徒が増加傾向にある中、すべての児童生徒が『学校が楽しい』と感じられる居場所づくりが急務である。そのため、全校で「明日もまた行きたいと思える学校づくり」をテーマに掲げ、日々の授業改善に加え、子ども同士、子どもと教師が互いに認め合える温かな人間関係づくりを最優先課題として取り組む。また、教育相談体制の充実に加え、QU（学級満足度）調査やアンケートを効果的に活用し、児童生徒の小さな変化や SOS を見逃さず、早期発見・早期対応ができる組織的な体制を強化する。教職員においては、互いに支え合う『チームとしての学校』づくりを推進し、風通しの良い職場環境を整えることで、児童生徒への支援力を高めていく。不登校児童生徒に対しては、関係機関との連携を密にし、心理的なケアと並行して、ICT 等を活用した学習機会の確保（学力保障）にも努めていく。 			

(4) 安全で安心して学べる教育の場づくり

項目	到達度	取組内容	結果
① 子どもたちの安全安心の確保			
<p>ア いじめを許さない学校づくりに努めるとともに、いじめ防止基本方針（町・学校）に基づき、いじめ防止に取り組みます。</p>	4	<p>○いじめを許さない学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止の取組 ・いじめアンケートの実施 ・中学校区フォーラム活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから児童生徒の観察、指導をきめ細かく行っていた。問題が起こった場合、全職員で共有し解決に向けて取り組んだ。 ・「明日も行きたい学校づくり」をテーマに児童生徒を巻き込み、各校で実践を進め、フォーラム全体会等で互いの実践から学ぶ機会を設けることができた。
<p>イ 校内危機管理体制の充実に努めます。</p>		<p>○避難訓練及び引き渡し訓練等の実施</p> <p>○エピペン研修の実施</p> <p>○学びの継続、学びを止めない体制づくり（双方向型遠隔授業スキルの獲得）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機発生時（火災・震災・土砂災・食物アレルギー対応等）の行動や指示・連絡系統について全職員に周知・徹底するとともに、実際に訓練やシミュレーション研修を行うことによって改善点を見つけ、より現状に沿った形の危機管理マニュアルとして改訂、見直しを行った。また、訓練を通し、児童生徒が主体的に自分の身を守る力を育むことができるよう取り組んだ。
<p>ウ 安全安心な学校施設設備の整備に努めます。</p>		<p>○学校施設設備の点検整備、定期的な安全点検の実施</p> <p>○感染症対策の継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月職員が分担して安全点検を行い、必要に応じて修繕し、安全安心な学校施設設備の整備に努めた。
<p>エ 家庭・地域・行政・関係機関と連携し、通学路等の安全安心の確保に努めます。</p>		<p>○絆ネットの活用</p> <p>○通学路の危険箇所の点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や保護者・地域及び関係機関との連携し、交通安全や不審者等の情報共有を密に行った。

② 学び合い、協力し合う体制づくり

<p>ア 教職員一人ひとりの資質の向上に努めます。</p>		<p>○研修履歴を活用した研修会等への積極的参加 ○コンプライアンスの徹底 ・朝の打ち合わせ ・コンプライアンス研修 ・職員会議等での定期的な点検活動 ○南勢支援事務所、町教委指導主事訪問による指導・助言 ○ミドルリーダーの育成研修実施 ・多気郡課題別研修会（年3回）</p>	<p>・計画的かつ組織的に研究授業を行うとともに、南勢教育支援事務所指導主事を招聘したり、町指導主事を派遣したりして授業研究を行うなどし、全体の授業力向上に取り組んだ。また、日常の管理職の授業観察と助言や授業公開などにより、実践的な指導も行われた。普段から互いに授業を見せ合うなど、OJTの仕組みがうまく機能した。</p>
<p>イ 保・小・中の交流を深め、連携できる体制づくりに取り組みます。</p>	<p>3</p>	<p>○小中連携教育の推進 ・学力向上推進委員会 ・GIGA スクール構想担当者会 ・外国語教育担当者会 ・小中外国語教育授業研究会 ・相互授業参観交流〈勢和中校区〉</p> <p>○保小連携教育の推進 ・保育参観、授業参観 ・小中合同研修会</p>	<p>・小学校教職員が保育園を訪問し、保育の様子を実際に見たり、保育園や保護者と面談して状況や要望を聞いたりなどして、次年度入学する児童がスムーズに小学校生活になじめるように、連携を密にすることができた。</p> <p>・3月下旬に小学校6年担任が中学校を訪問し、中学校教職員と新入生等に関する情報交換会を行う予定である。</p> <p>・(勢和小中) 合同研修会や授業参観等を実施し、交流と連携に努めた。</p>
<p>ウ 多気町教育委員会研究指定校による研究を推進します。</p>		<p>○相可小学校授業研究会の開催（11月12日）</p>	<p>・相可小学校において、研究発表会を行った。授業研究会参観後、それぞれの学校にて研修会を開き、自校での授業改善の取り組みにつなげることができた。</p>

<p>工 教職員の総勤務時間の縮減を図ります。</p>	<p>○労働環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外労働時間の縮減 ・ 定時退校日の設定 ・ 部活動休養日の設定 ・ 会議の効率化 ・ SSS の配置 ・ クラウド、共有フォルダ活用 <p>○教科担任制の導入</p> <p>○「部活動ガイドライン」に基づいた部活動の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動運営方針、部活動計画書の作成及び承認 ・ 部活動休養日の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の統一項目に向けた取り組み（定時退校日の設定・部活動休養日の設定・会議スマートルール）や学校行事の見直し、SSS の配置などを通し、勤務時間の縮減を進めることができた。時間外労働時間が月 45 時間を超える教職員も確実に少なくなっている。 ・ 部活動においては、部活動ガイドラインに基づいた部活動の運営に努めた。夏の猛暑で部活動を中止せざるをえない日も多かったが、熱中症対策を講じながらできる範囲で活動を行った。
-----------------------------	---	--

<改善課題>

- ・ 部活動については、夏季の気温上昇に伴い熱中症リスクが高まり、大会前であっても活動を中止せざるを得ない日が多く生じた。あわせて、中体連等の大規模大会では生徒の健康面に配慮し日程が長期化する傾向にあり、引率・運営等により教員の週休日(土・日)の業務負担が増加している。部活動の地域移行については、部活動検討委員会を設置し検討を進めているが、指導者の確保、活動場所・時間の調整、費用負担や安全管理等、受け皿整備に関する課題が多い。今後も、関係団体や社会体育との連携を含め、持続可能な運営体制の構築に向けて検討を継続する。
- ・ コンプライアンス研修については、従来の服務規律に加え、近年メディアでも大きく報じられた盗撮事案を取り上げ、教職員が具体的な場面を想定してリスクと防止策を確認する機会を設けた。あわせて、生徒を撮影する場合の目的の明確化、撮影・保存・共有の手順、個人情報保護の観点からの留意点について情報共有と再確認を行った。今後も、盗撮防止を含むコンプライアンスに関する研修を継続的・定期的に実施し、未然防止と意識の徹底を図る。

(5) 地域との協働と信頼される学校づくり

項目	到達度	取組内容	結果
① 地域とともにある学校づくり			
ア 目指す学校像を明らかにし、信頼される学校づくりに努めます。	4	<ul style="list-style-type: none"> ○学校マネジメントシートの活用 ○学校運営協議会の実施 ○家庭・地域への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより、HP ・授業参観、学習発表会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に「目指す学校像」を全教職員で確認し、具体的な行動計画の検討を行った。学校の方針についてはPTAの会議や学校便り等で保護者・地域住民に伝え、保護者、地域、学校が連携し取り組みを進めた。
イ 地域に根ざした特色ある学校づくりを行います。		<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールを土台とした学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・CSの組織体制の確立 ・地域学習・体験の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色を生かした地域講師を招いての農業体験学習、自然体験、地域学習等を行うことができた。地域の講師に生の声を聞くことで、地域を知り、地域から学ぶ学習を発達段階に応じて進めることができた。
ウ 学校評価や学校運営協議会制度を活用し、開かれた学校づくりを進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者アンケート ○学校運営協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者アンケートを実施し、その結果を学校だよりで公表している。また、学校運営協議会を開催し、地域の人意見を学校運営に生かすことができた。
<p>＜改善課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働については、各校において地域の豊かな人材や自然環境を生かした体験活動や行事が活発に展開されている。地域の方々の教育に対する関心は高く、登下校の見守りや学習支援など、多方面で学校への協力が得られていることは本町の大きな強みである。今後は、各校に設置された『学校運営協議会（コミュニティ・スクール）』を核として、地域と学校が目標を共有し、一体となって子どもたちを育てる体制を強化する。単なる支援にとどまらず、地域住民が当事者意識を持って学校運営に参画できる仕組みづくりを推進し、持続可能な『地域とともにある学校』を実現していく。 			

(6) 小学校統合について

項目	到達度	取組内容	結果
<p>①敷地造成に向けて、設計業務の発注。造成に係る機関との協議や連携を行います。</p>		<p>○多気地域統合小学校建設事業の造成設計における基本設計、実施設計等を行う。加えて、開発協議等の各種法規制への資料を作成し、開発許可申請を行う。</p>	<p>・統合小学校建設用地の地質調査を行った。また、流末河川の調査を行い、調整池の検討を行った。開発協議に関して、関係機関協議に相当の期間を要するため工期を延長した。</p>
<p>②多気地域小学校統合準備委員会及び4部会を運営し、3校先行統合を主とした協議・検討を進めます。</p>	4	<p>○多気地域各小学校長、地域住民代表、保護者代表、教育委員などで構成された「多気地域小学校統合準備委員会」を設置。準備委員会の中に4つの部会（建設検討部会、地域検討部会、運営検討部会、総務部会）を置き、それぞれの部会で所掌する課題を協議・検討する。また、必要に応じて分科会を開催する。（3校統合については令和6年10月決定）</p>	<p>・建設検討部会では、要求水準書の作成を中心に議論を進めた。その中で教諭代表や養護教諭代表などの分科会を開催して、要望や課題等を聞き取り、要求水準書の中に反映した。地域検討部会では、3校統合校におけるスクールバスのルート案について議論を行った。また、PTAやCSについて問題提起を行った。運営検討部会では、3校統合・4校統合を見据えた年間行事予定や校務分掌について検討を進めた。総務部会では、校名募集を行い、4校統合校の最終校名案が多気小学校に決まった。</p>
<p>③令和9年度の校舎建設等の設計及び工事発注に向けて、民間活力導入可能性調査及び事業者公募・選定を進めます。</p>		<p>○統合校建設に向けて民間活力活用を前提として、民間事業者の創意やノウハウを取り入れ、効率的、効果的なサービスの提供をめざすため、PFI方式などの事業手法の導入可能性について検討を行う。</p>	<p>・事業者へのアンケートやヒアリングを実施し、定性的な評価を行うとともに、VFM算定を行うことで定量的にも事業手法の検討を行った。</p>

2. 社会教育の推進

(1) 社会教育活動の充実

項目	到達度	成果・課題
①偏見と差別のないまちづくりの実現に努めます。	3	<p>【成果】</p> <p>本年度は多気中学校区が県教委人権教育課の「人権教育アライメント事業」の委託を受けていたため、事業でめざした「明日も行きたい学校」「一人ひとりが安心して自分を出せる学校」と関連して活動した。このことは、「誰もが安心して住める町」は「偏見と差別のないまち」のため、大きく関連している。多気町人権教育推進協議会主催の「現地学習会」(BANKYO 文化会館で実施)では、委員や人権擁護委員に、多気中学校区と勢和中学校区の人権フォーラム実行委員に加えて相可高校人権サークルの生徒と交流を行った。町内で活躍される方々の話から「傾聴」「チームづくり」「体験」等の大切さを学べた。SNS 社会で誰もが出会う可能性の高い「部落差別」について学ぶ連続講座を実施した。多気町人権教育推進協議会委員や多気町人権擁護委員以外からも参加者があり、学び続けることの大切さと自信を持って行動するための根拠を持てた。</p> <p>町民の人権意識を高め啓発に取り組むため、人権ポスター展を開催し、2中学校区のフォーラム全体会を後援、人権広報誌を配付することができた。加えて、多気地域の小学校統合を見越して、保幼小中懇談会の輪番等を見直した。</p> <p>【課題】</p> <p>今後も、偏見と差別のないまちづくりのため、人権に関する情報や学習機会の提供を図り、講演会への参加者を増やす必要がある。人権広報誌作成費、現地学習会バス代が高騰しているため事業計画や実施方法を見直す必要がある。</p>
②子ども一人ひとりの育ちのために子育て文化を関係機関と連携し構築します。	3	<p>【成果】</p> <p>今年度は、他団体と協力しながら全ての活動を行うことができた。夏休み体験活動には、小中学生 31 名が参加し、水遊びや鮎つかみ体験などふだんできないような体験を色々堪能することができた。また、昨年度から多気郡教育会館とともに行っている星を観る会には、70 名の子ども達や保護者が望遠鏡を使って惑星や恒星を観察することができた。さらに、新春凧揚げ大会には、33 名の園児・児童が参加し、凧作りと凧揚げを楽しむことができた。少年の主張では、町内の各小中学校から、「日ごろ感じていることや考えていること」の作文を募集し、7 作品を「広報誌はぐくむ」に掲載し、町内各戸に配布した。</p> <p>【課題】</p> <p>たくさんの方が参加できるように開催時期を考え、呼びかけを行っていく。地域住民、保護者、関係機関が課題を共有し、子ども一人ひとりの育ちのために何をするのが良いのかを常に考えていく必要がある</p>

<p>③公民館事業のさらなる充実を図ります。</p>	<p>3</p>	<p>【成果】 地域住民の生活・健康・地域再発見・趣味をテーマとした企画を実施した。とりわけ、終活をテーマにした「ライフステージ教室」、健康を目的とした「薬膳教室」を実施し、概ね好評を得ることができた。今後も、時代の流れに即したテーマの公民館講座を行っていく必要がある。</p> <p>【課題】 公民館講座受講生の高齢化と固定化もあり利用者が減っている、魅力的な講座を企画し受講生を増やしていきたい。</p>
<p>④魅力ある図書館づくりを目指します。</p>		
<p>ア 町民が安心して暮らすための心の拠り所となる図書館を目指します。</p>	<p>4</p>	<p>【成果】 多気町社会福祉協議会との連携講座、町内行事での移動図書館などの事業も実施し、幅広い年代層の方々の心の拠り所としての機能を発揮できた。</p> <p>【課題】 より多くの町民に親しまれるよう 2 館それぞれの地域性を活かして特色を持たせた図書館を運営していく必要がある。そのためにも司書の入れ替わりがある中、研修・自己研鑽を繰り返し資質向上を図っていく。</p>
<p>イ 利用者の生活や地域課題に役立つよう、より良い選書とレファレンスサービスに努めます。</p>	<p>4</p>	<p>【成果】 司書の専門的見地から、資料や情報を的確に紹介し、利用者の課題解決に繋がるよう努めた。</p> <p>【課題】 選書会議を設け、限られた予算の中で、それぞれの図書館の特性に合った必要な書籍の選択をしていく必要がある。またそれぞれの図書館の特性を把握し、図書館運営に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>ウ 「多気町子ども読書活動推進計画」を着実に推進し、子どもと本をつなぎます。</p>	<p>4</p>	<p>【成果】 「子どもの読書の水先案内人に」と題して、子どもの本に携わられてきた斎藤惇夫氏の講演会を実施し、子どもへの本の重要性、それに対する大人の責任を痛感した。</p> <p>【課題】 第四次計画の着実な推進と各部署との更なる連携強化が必要である。特に各家庭での読書状況が心配であり、家読（うちどく）の取り組みに力を入れていきたい。</p>

(2) 文化の振興

項目	到達度	成果・課題
①生涯学習フェスティバルや文化祭を通し、文化の振興に努めます。	3	<p>【成果】 生涯学習フェスティバルの舞台発表と展示部門両方を開催でき、舞台発表では新しく3団体に出演していただいた。勢和公民館地域文化祭では、今年度から会場を勢和公民館や勢和東公民館で活動している団体の作品図書館へ変更した。これにより、展示、勢和保育園や勢和小学校の作品展示をおこなう期間を従来より長く確保することができた。でき、多くの図書館利用者が作品に触れる機会を得た。</p> <p>生涯学習フェスティバル 出展数：255点 出演団体：10団体 勢和地域文化祭 出展数：102点</p> <p>【課題】 来年度より、勢和地域文化祭の作品展示は生涯学習フェスティバルへ集約される予定であり、出展者の減少を避けるためにも、地域ごとの作品が十分に発表される仕組みづくりが求められる。</p>
②文化会館自主事業を通じて、芸能や芸術に触れる機会を創出します。	3	<p>【成果】 今年度は自主事業を1件開催することができた。劇団白つばき公演が実施されるなど、町民の芸術文化活動の継続を支援することができた。</p> <p>【課題】 芸能芸術に触れる機会を継続して提供するため、自主会館事業を通年開催出来るように、これまで以上に補助事業の活用が課題となっている。</p>
③町民文化会館の施設改修、設備更新をすすめ、安心安全な管理運営に努めます。	4	<p>【成果】 町民文化会館のエレベーターや受電設備等の改修、ホールの椅子、デジタルミサ-の更新を行い、安心して利用できる環境にすることができた。舞台運営を的確に行う事ができた。</p> <p>【課題】 設備更新には多額の費用が必要となる。T ステージが人材不足により解散するため、運営体制の構築が必要である。</p>
④郷土の歴史資料等を適切に保存、公開することにより後世への継承に努めます。		

<p>ア 郷土資料館所蔵資料の保存・整理に取り組み、活用の促進を図ります。</p>	<p>3</p>	<p>【成果】 ボランティアの協力で旧佐奈村役場文書 1,699 点の整理が進んだ。「私の推し文書」として興味深い内容の資料を紹介してもらうカードを作成し、内容をより詳しく見ていただけるようになった。また、作業の流れを見直すことで、効率も上がり、整理した資料の数は昨年度を上回った。 〈資料整理〉 対象資料：旧佐奈村役場文書 ボランティアの作業期間：10月14日(火)～11月21日(金) ボランティア 19名 館員 2名</p> <p>【課題】 旧佐奈村役場文書の目録作成、他にも残る膨大な文書類や出土品の整理に必要な人員の確保、整理した資料の収蔵スペース確保が今後の大きな課題である。</p>
<p>イ 郷土の歴史や文化をテーマとする企画展を行います。</p>	<p>4</p>	<p>【成果】 年3回の企画展を開催し、郷土の歴史や文化への関心、理解を深める機会を作ることができた。従来ほとんど公開していなかった出土遺物のミニ展示は来館者の幅を広げた。本草学を紹介した企画展は二人も本草学者が輩出した当町の歴史を再発見していただく良い機会となった。 〈企画展〉 ・5月9日(金)～6月22日(日) くらしの形と心 vol.1～調理する～ ミニ展示 埋もれていたモノたち 森荘川浦遺跡 1 151名 ・7月18日(金)～9月21日(日) 知的好奇心が開いた世界～本草学・博物学・博覧会～ 328名 ・1月14日(水)～3月15日(日) 昭和100年 くらしのうつりかわり 221名(2月24日時点)</p> <p>【課題】 1月からの展示は学校からの見学が多いが、自主的に来館する子どもは少ない。歴史や昔の暮らしについて知りたいときに気軽に立ち寄れるような場所、展示になるように工夫する必要がある。</p>
<p>ウ 郷土史に関連する講演や「たきカルタを歩く」を開催します。</p>	<p>4</p>	<p>【成果】 たきカルタに登場しない文化財等も見学できるよう、「ししんの里を訪ねて」と改称して開催した。発掘の現場を見るというリアルな体験に感動された方が多く、地域の歴史を伝える重要な役割を果たせた。講演会は、専門的で難しい内容であったが、当町出身本草学者の歴史的な位置づけを広く知っていただくことができた。 9月13日(土) 講演「伊勢の本草博物家 野呂元丈と西村広休—二人のみた舶載洋書をめぐって—」 講師：松田清氏(京都大学名誉教授) 参加者：140名 12月7日(日)「ししんの里を訪ねて 河田古墳群」 参加者：27名</p> <p>【課題】 本草学の講演については、参加者の評価が分かれた。専門</p>

		<p>的な内容の講演時には、予備知識がない人にも理解できるように、当日の配布資料とは別に事前に基本的な知識をまとめた資料を提供するなどの配慮が必要である。</p>
<p>⑤女鬼峠の国史跡指定を目標に調査・測量を進めます。</p>	<p>5</p>	<p>【成果】 今年度は国史跡追加指定に向けて、文化庁に意見具申を行った。国史跡に追加される見通しである。</p> <p>【課題】 史跡指定後の世界遺産追加登録に向け、熊野参詣道伊勢路関係市町との連携、協力を図り、地域全体の気運を高めていく必要がある。また、観光担当との調整も必要となる。</p>

(3) 国際交流の推進

項目	到達度	成果・課題
<p>①キャマス市および金華国民中学校の中学生との相互交流を推進し、国際感覚豊かな人材の育成に努めます。</p>	<p>3</p>	<p>【成果】 今年度は、キャマス市の中学生派遣団を無事に受け入れることができ、中学校や地域の皆さまの協力のもと、多様な体験プログラムを提供することができた。キャマス市の参加者からも大変好評で、交流の充実を感じられる機会となった。また、台湾派遣においては事前準備を丁寧に進め、多気町から 15 名の中学生を派遣することができた。両国との交流は一層深まり、国際理解教育の推進にとって大きな成果を得られた一年であった。</p> <p>【課題】 来年度は、キャマス市との交流 30 周年にあたり、現地で記念式典が予定されている。これに向けて、事前準備やキャマス市担当者との連絡調整をより確実に進める必要がある。また、来年度 7 月には台湾から 2 泊 3 日で来日予定となっている。例年より短い滞在であるため、その限られた時間の中で日本文化を十分楽しんでもらえるよう、受入れ計画を工夫していくことが課題である。</p>
<p>②国際交流協会の実施するイベントを支援します。</p>	<p>4</p>	<p>【成果】 今年度は、「日本語でつながる交流会」において、多気町で働くインドネシアの方々が多数参加し、活気のある交流の場をつくることができた。</p> <p>また、毎年実施しているクリスマスパーティーや一日バスツアーは早期に予約が埋まり、日本人と外国人が自然に交流できる良い機会となった。</p> <p>さらに、初めて書道体験会を開催し、多くの参加者を迎えることができた。国際交流員の英語カフェについても、毎回満席の好評をいただいております。協会の会員数増加にも寄与した一年であった。</p> <p>【課題】 日本語交流会では、参加者が少ない開催日もあった。予約制ではないため人数把握が難しいことが課題となっている。今後、開催日や運営方法の見直しを検討する必要がある。また、日本人ボランティアの層をさらに広げ、活動を安定的に支えていける体制づくりも今後の重要な課題である。</p>

(4) スポーツの振興

項目	到達度	成果・課題
①誰もが楽しめるスポーツの普及振興に努めます。		
ア 生涯にわたって地域でスポーツに親しむことが出来るように、多気町スポーツ協会と連携し、地域スポーツ団体の活動を支援します。	3	<p>【成果】 多気町スポーツ協会主催のジョギング大会を町外参加者も募って開催し、より多くの方にスポーツの楽しさを広め、交流の場を設けることができた。</p> <p>【課題】 全世代が楽しめるスポーツとして、グランドゴルフの普及に努めているが成果が出ていない。一部地区スポーツ協会において大会の開催を行っているので、継続できるよう支援が必要である。</p>
イ 体育施設開放事業を推進し、より多く町民が施設を利用できるように努めます。	3	<p>【成果】 町民に手軽で身近なスポーツ活動の場を提供し、生涯スポーツの推進と地域のコミュニティーづくりの促進、体力向上と健康増進に寄与できた。 学校体育施設や社会体育施設の利用を促すことで、施設の特性に合わせた競技団体の利用につながった。</p> <p>【課題】 新しい団体の施設利用もできた利用者が固定的で、競技によって利用できる社会体育・学校施設が異なるため、適切な施設利用に取り組んでいく。</p>
②総合型スポーツクラブの育成に努めます。		
ア スポーツ協会が行うスポーツ教室、イベント等を支援します。	4	<p>【成果】 5回の町内ウォーキングや、心肺蘇生セミナー、ピクニックボール大会体験会、ジョギング大会、ビーチボール大会、ボウリング大会などの催しを開催することによりとともに、毎週水曜夜間に体育館にてナイトウォークを継続開催し、多くの方に参加して頂き、町民の皆さんの健康増進に寄与できた。</p> <p>【課題】 誰もが参加しやすいイベントや大会の開催を検討していく。</p>
イ 休日の中学生のクラブ活動の受け皿となる仕組みづくりをスポーツ協会と進めます。	3	<p>【成果】 休日部活動の地域展開の移行へ向けて、第1回多気町中学校部活動検討委員会を2回開催し、今後の取組みへの協議を進める事ができた。また、今後の見通しについてチラシを作成した。</p> <p>【課題】 各スポーツ団体指導者と各中学校部活動顧問との連携を支援し、部活動生徒にとってより良い指導環境を提供できるように検討する必要がある。</p>

※到達度

5 目標を大きく上回る

4 目標を上回る

- 3 目標どおり
- 2 目標を下回る
- 1 目標を大きく下回る